

## 令和7年度 第1回座間総合協議会 議事録

日時：令和7年7月1日（火） 15：30～17：00

場所：ラウンジ C

参加者：加藤充洋（神奈川県立総合教育センター教育指導員）

窪悠久（PTA 会長） 窪田晃子（栗原中学校校長）

小西伸悟（座間市栗原中学校区青少年健全育成連絡協議会会長）

山梨彰（多文化教育コーディネーター）

唐川和彦（座間総合高校校長）

神野伸（副校長） 西川潤一（教頭） 松下徹（事務長）

有年大樹（キャリア支援 GL） 原口幸二（管理運営 GL）

中沢裕美（未来企画 GL） 佐藤亮太（生活支援 GL）

棟近康平（学習支援 GL） 今井美幸（活動支援 GL） 山田剛（書記）

欠席者：曾根寿太郎（栗原地区の地域代表） 金井徳兼（神奈川工科大学創造工学部教授）

廣瀬道 （国際フード製菓専門学校校長）

次第（司会：副校長）

0. 委嘱状交付：交付済みを確認。

1. 開会（副校長）

2. 自己紹介：参加者より役職と名前の紹介。

3. 校長挨拶：伸びしろのある本校生徒を引き続き支援していきたい。

4. 会長・副議長の選出：会長に加藤充洋氏、副会長に唐川氏を選出。

5. 会長挨拶：学校と協同し、生徒の立場に立ち生徒の伸長に役立つ協議会としたい。

6. 議事

（1）学校教育計画について：副校長

「学校教育計画（令和6年度～令和9年度）」の1「学校のミッション」、2「学校教育目標」について学校要覧をもとに説明。

質問：加藤会長 4年間の計画の中で本年度は2年目である。進捗状況はどうであるか。

回答：目標達成に向けて着実に階段を上っている。

（2）教育課程編成について：副校長

「必修履修科目と多様な選択科目」について学校要覧をもとに説明。

質問：加藤会長 カリキュラム編成は軌道にのったか。

回答：県の方針で「学校設定科目」は減少したが、他校と比し、総合学科らしい「多様な選択科目」が用意されており、本校の特色が出ていると思う。また、進学を希望する者に対し、2年次より「数学C」が選択できるようにした。

（3）構内組織編成について：副校長

6グループ、9会議で組織運営がなされていることを、学校要覧をもとに説明。

（4）予算について：事務長

学校予算について：予算規模は昨年並み。「維持運営費」で校舎の老朽化に対応している。

(5) 学校施設及び設備等の管理及び整備について：事務長

災害時対応のため、窓ガラス飛散防止工事を後期に予定している。

(6) 年間計画について：原口幸二（管理運営 GL）

令和7年度「年間行事計画」を、学校要覧をもとに説明。8月25日から29日にかけて、生徒面談期間を設け、夏季休業明けの生徒状況を把握できるようにした。

質問：加藤会長 定期試験が3回と減じたが、学習状況に変化があるか。

回答：特段問題点は生じていない。定期試験だけにとらわれない評価の仕方が、教員・生徒双方に根付いてきている。

質問：加藤会長 公開授業は設定されているのか。

回答：10月の第2回学校説明会に「中学生向けの授業」を設けている。

質問：加藤会長 国際フェスタは12月に設定されているが、今後も12月開催であるのか。

回答：12月開催が教員・生徒とも時間に余裕を持って臨めるので、今後も12月開催になると思う。

質問：加藤会長 在県生徒以外で外国につながる生徒は何人いるか。

回答：60人弱である。

(7) 入学予定者アンケートについて：中沢裕美（未来企画 GL）

入学者の内、9割が学校説明会に参加している。複数回参加する中学生も前年度3%から17%へ増加している。学校説明会の内容は概ね好評である。本校に期待されていることは、中学生からは「多様な選択科目」と「国際色」であった。保護者からは「進路サポートの充実」であった。

質問：小西委員 学校説明会で工夫したことは何か。

回答：生徒会の生徒を中心に、説明会に参加してもらっている。生徒目線で会話ができるので中学生からは好評であった。

## 7. 学校評価部会

今年度の取り組み状況と内容について（各グループリーダーより）

### ○未来企画グループ：中沢裕美（未来企画 GL）

- ・「学校広報活動」と「入学者選抜事務局」と「国際理解教育の推進」が主な職務内容である。
- ・多文化共生の「知る・つながる・創る」という理念の具現化が目標である。
- ・今年度も生徒に協力してもらいながら「学校広報活動」に励みたい。また、総合的な探究の時間では「課題研究」をより充実させたものにしていきたい。

### ○学習支援グループ：棟近康平（学習支援 GL）

- ・進路を見据えた「履修指導」を強化するために「履修ガイダンス」の充実に努めている。
- ・本年度の授業改善のテーマは、「だれもが授業に取り組みたくなる導入の工夫」である。
- ・「ジャパンナレッジスクール」を活用した探究授業＝教科横断型授業の展開も実践していく。
- ・「採点ナビ」の導入により、採点の負担の軽減化を図った。

○管理運営グループ：原口幸二（管理運営 GL）

- ・入学式の「校歌紹介」では例年より多くの部活動・委員会の協力を仰ぎ、迫力のあるものにした。
- ・職員の負担軽減のため「ネットバンキングの導入」を検討している。
- ・今年度「1 教室 1 アクセスポイント」の体制が整う。また、電子黒板の導入に向けて職員対象の研修を実施する。
- ・PTA 活動では「LINE WORKS」を導入し、活動の可視化を図っている。
- ・生徒を対象とした DIG 研修を実施し、防災意識の向上に努めていきたい。

○活動支援グループ：今井美幸（活動支援 GL）

- ・生徒が主体的に行動し、他者と協力して諸活動を創造できるように、過度の指導はせずに生徒を見守るように支援をしていくことが目標である。生徒の様々な失敗を、成長の糧であると前向きに捉えるようにしている。

○生活支援グループ：佐藤亮太（生活支援 GL）

- ・「生徒指導」と「生徒相談活動」の 2 本が主な職務内容である。
- ・引き続き自転車事故防止に注力していきたい。ヘルメット着用率が 10%に満たないので、着用率を高めることが今後の課題である。
- ・SNS の不適切使用が後を絶たないので、全校集会などで注意喚起をしていく。
- ・6 月に実施した「かながわ子どもサポートドッグ」で大きな問題は見つからなかった。夏季休業明けの生徒状況については、面談期間を通して把握していく。

○キャリア支援グループ：有年大樹（キャリア支援 GL）

- ・本年度は進路情報が生徒に行き届くように、掲示物の掲示の仕方に工夫を凝らしたい。
- ・16 期生の進路状況は、大学では年内入試が 95%、短大・専門学校では年内入試が 100%であった。このことから、面接指導に一層力を入れる所存である。また、進路未定者が前年度に比し減じた。担任を中心とした進路指導が行き渡っている証左である。
- ・4 月の進路希望調査では、進路希望未定者が 1 年次では「22%」、2 年次では「19%」、3 年次では「4 %」と年次が進行するにつれて「未定者」の割合が減少している。学校をあげたキャリア支援ができていると受け止めている。

8. その他

○加藤会長より：各委員に本協議会全体を通して感想・意見・質問を募りたい。

質問：窪委員 学校教育目標の 4 本柱をどのようにクリアしていくのか、その方策が可視化されていない。例えば 5 段階評価のように数値化するのはどうか。

回答：数値化も含め、可視化を検討していきたい。

質問：窪委員 自転車登校者へのヘルメット着用を義務化して欲しい。加えて、道路交通法を生徒に教えて欲しい。

回答：入学予定者説明者で「自転車保険」については必須と伝えている。「ヘルメット着用」については各自治体で補助金が出ることを説明した。その結果、新入生のヘルメット着用率は多少あがっている。道路交通法については、機会を設け教えていくようにする。

意見：小西委員 目標達成度の数値化については、数字を追うあまり教員の負担になることを危惧している。過度な負担にならないような方策をとって欲しい。

回答：数値化のメリット、デメリットを勘案して、バランスのよい方策を考えていきたい。

感想：窪田委員 中学校でも多文化共生を目指しているが、その実践は難しいと感じている。

「採点ナビ」については、座間市内の各中学校で違う「アプリ」を導入し、より現場に即した「採点ナビ」アプリは何かを探っている途中である。DIG 研修については貴校の取り組みを参考にさせていただきたい。

意見：山梨委員 外国につながる生徒たちへの「母語教育」の場を検討していただきたい。母語はアイデンティティの根幹をなすものである。

情報提供：山梨委員 親の「在留資格」がなくなると、自動的に子どもの「在留資格」がなくなり、学校を辞めざるを得ない。身近に2件発生している。貴校も十分に注意していただきたい。

## 9. 閉会（副校長）

- ・次回、第2回座間総合協議会は11月を予定している。開会日は1か月前にはお知らせするので、ご参会を願う。